

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
経営協議会（平成26年度第1回）議事要旨

1. 日時 平成26年6月24日（火）14:00～15:50
2. 場所 奈良先端科学技術大学院大学 事務局3階 会議室
3. 出席者 小笠原議長
片岡、横矢、高比良、太田、常盤の各学内委員
志村、宮寫、CASSIMの各学外委員
（※CASSIM委員は、東京事務所からのテレビ会議）
欠席者 石井、井上、佐々木、矢嶋の各学外委員
出席監事 二宮、野口の各監事
陪席者 尾原教育研究支援部長
奥田教育研究支援部次長
竹下、井上、森川、桑原、樋口、上坂の各課長
4. 配付資料
資料1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（平成25年度第4回）
議事要旨（案）
資料2-1 平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）の概要について
資料2-2 平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）
資料3-1 平成25事業年度財務諸表（案）
資料3-2 平成25事業年度決算
資料4 平成27年度概算要求の概要
資料5 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学職員就業規則等の一部改正等について
資料6 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学教育研究系有期契約職員就業規則の
一部改正について
資料7 平成26年度国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学運営体制
資料8 本学の主な動き（平成26年3月25日～平成26年6月23日）
資料9 国立大学法人における会計監査人の選任について（通知）
資料10-1 奈良先端科学技術大学院大学全学外部評価会議報告書
資料10-2 外部評価を受けて
参考資料 全学自己点検・評価書（中期計画ごとの平成22年度～平成24年度の実施状況等
について）
資料11 平成26年度外部資金の受入れについて
資料12 平成26年度科研費（新規採択分）の交付内定状況について
机上資料 奈良先端大 大学改革構想
参考資料 節電目標ポスター及び平成26年度夏期節電について
参考資料 奈良先端大の概要と特色

議事に先立ち、議長から平成26年度から新たに就任した常盤委員及び野口監事の紹介が行われた。

5. 議 事

(前回議事要旨の確認)

資料1の前回(平成25年度第4回)の議事要旨(案)について、原案どおり承認された。

(審議事項)

(1) 平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

横矢委員から、資料2-1~2に基づき、平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告書について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。なお、今後の加除・修正等については学長に一任することとし、役員会での議を経て、6月末に文部科学省国立大学法人評価委員会へ提出することが確認された。

(主な意見等は、次のとおり)

- ・理工系のライフサイエンスを持つ大学の危機管理については、実験動物など失うと研究に大きな支障をきたすものについて、リスク分散を含めて包括的な対策を考える必要があるだろう。
- ・災害などの非常時において、大学としての機能を継続し、教育研究に必要な環境を維持するためのリスク管理について、今後検討する必要があるだろう。

(2) 平成25年度決算について

高比良委員から、資料3-1~2に基づき、平成25年度決算について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。なお、今後は、役員会での議を経て、6月末までに文部科学省へ提出することが確認された。

(3) 平成27年度概算要求事項について

高比良委員から、資料4に基づき、平成27年度概算要求事項について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。なお、今後の加除・修正等については学長に一任することとし、役員会での議を経て、文部科学省へ提出することが確認された。

(主な意見等は、次のとおり)

- ・現在、学術関係の議論の中で多用されている「若手人材」、「国際ネットワーク」等のキーワードを、概算要求内容に上手く盛り込むことは有効かもしれない。
- ・プロジェクトを担当する一部の部局だけが国際化を推進するのではなく、大学全体で国際化を推進する体制を作ることが重要である。
- ・科学の発展という面においての先進諸国との国際共同研究だけでなく、技術提供による国際貢献という面においての新興国や発展途上国との国際共同研究も意味があるだろう。
- ・これからの生命科学分野においてフロントランナーであるためには、分野を限定せず、幅広い分野で取り組んでいくことが重要である。

(4) 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学職員就業規則等の一部改正等について

高比良委員から、資料5に基づき、国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学職員就業

規則等の一部改正等について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

(5) 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学教育研究系有期契約職員就業規則の一部改正について

高比良委員から、資料6に基づき、国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学教育研究系有期契約職員就業規則の一部改正について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

(主な意見等は、次のとおり)

- ・雇用形態や給与形態の違いによって、研究者間で軋轢が生じたり、疎外感を感じたりすることがないような環境作りをすることが大事である。

(報告事項)

(1) 平成26年度運営体制について

議長から、資料7に基づき、平成26年度運営体制について報告が行われた。

(2) 本学の主な動きについて(平成26年3月25日～平成26年6月23日)

議長から、資料8に基づき、平成26年3月25日から平成26年6月23日までの本学の活動状況等について報告が行われた。

(3) 平成26事業年度会計監査人の選任について

高比良委員から、資料9に基づき、本学の会計監査人として新日本有限責任監査法人が選任された旨の報告が行われた。

(4) 全学外部評価について

横矢委員から、資料10-1～2に基づき、全学自己点検・評価書に対する全学外部評価の結果について報告が行われた。

(5) 平成26年度外部資金の受入れについて

横矢委員から、資料11に基づき、平成26年度外部資金の受入れ状況について報告が行われた。

(6) 平成26年度科学研究費補助金の交付内定状況について

横矢委員から、資料12に基づき、平成26年度科学研究費補助金の交付内定状況について報告が行われた。

(情報交換・意見交換)

小笠原議長から、机上資料に基づき、本学の大学改革構想を踏まえて「大学のガバナンス改革の推進」について説明が行われ、意見交換及び情報交換が行われた。

(主な意見等は、次のとおり)

- ・5年一貫制課程において、学生のラボローテーションを実施することは、学生の研究テーマに相乗効果をもたらすための有効な手段である。
- ・URAを機能させるために、先行してURAを導入している他大学等の研修制度や

教育制度を参考に、奈良先端大においてURAを育成する仕組みを検討する必要がある。

以 上